

# 株式会社ファーマシストライフ みずの薬局のBCP（業務継続計画）

2024年 6月作成

様式 I 業務継続の基本方針

みずの薬局の基本方針
①従業員及び来局者の安全確保を最優先する。
②医薬品等の安定供給（営業の早期開始）を図る。
③地域の医療救護活動に参加する。
④従業員の雇用確保と地域貢献に努める。

様式Ⅱ 被害の状況等の想定

種類： 地震災害 及び 津波被害

- ① 一般災害 （風水害）
- ② 地震災害・津波災害 （南海トラフ巨大地震）
- ③ 地震災害・津波災害 （安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震）
- ④ 地震災害 （己斐-広島西縁断層帯による地震）
- ⑤ 地震災害 （岩国断層帯による地震）
- ⑥ 地震災害・津波災害 （広島湾-岩国沖断層帯による地震）

※詳細については、広島県大規模災害時の業務継続計画の各項目を参照

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/4/1305624074709.html>

1 薬局の周辺

対象項目		被害状況（利用の可否）			
		6時間	24時間	3日	7日
ライフライン	電気	×	×	×	○
	上水道	×	×	×	×
	ガス	×	×	×	×
	電話（携帯）	×	×	○	○
	インターネット	×	×	○	○
	FAX・固定電話	×	×	○	○
	下水道	×	×	×	×
道路	通行状況	×	×	△	○
鉄道	運行状況	×	×	×	×
バス	運行状況	×	×	×	×
通常処方せんを 応需している 医療機関の 診療状況	こだまクリニック	×	×	△	△
	水入クリニック	×	×	○	○
	いとう医院	×	×	△	○
	JR病院	×	○	○	○
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波による被害軽微</li> <li>・計画停電無し</li> </ul>				



様式Ⅲ（通常・応急）業務の把握と災害時の優先業務

			優先業務	
	業務内容（ ）は業務番号		該当性	（順位）
通常業務	調剤業務	(1) 処方箋の受付, 入力	○	
		(2) 処方箋監査・疑義照会	◎	
		(3) 薬袋	◎	
		(4) 計数調剤	◎	
		(5) 散剤計量調剤	○	
		(6) 内用液剤調剤	○	
		(7) 外用薬調剤（軟膏剤, 湿布剤, 消毒薬等）	◎	
		(8) 調剤監査	◎	
		(9) 医薬品情報発行	△	
		(10) 服薬指導	◎	
		(11) 医薬品交付	◎	
		(12) 会計	○	
		(13) 調剤報酬請求	△	
	その他	(1) 一般用医薬品の販売	○	
		(2) 医薬部外品, 衛生材料の販売	○	
		(3) 食品, 日用雑貨の販売	○	
		(4) 在宅患者訪問薬剤管理指導	○	
(5) 学校薬剤師		△		
応急業務	<営業時に発災> ・来局者（患者・家族）の避難誘導  <共通事項> ・従業員の安否, 状況確認 ・店舗の状況確認 ・通常処方せんを応需している医療機関, 薬剤師会等の関係機関への連絡			

<注意事項>

該当性の欄；該当する業務に○。優先度：◎最優先・○優先・△できる範囲で

様式Ⅳ優先業務ごとの評価と対策（「処方箋鑑査・疑義紹介」の場合）

業務番号	(2)	業務名	処方箋鑑査・疑義紹介
------	-----	-----	------------

【業務資源とリスク評価】 下線・太線は必要不可欠な業務資源

業務資源		想定される被害状況	実施する予防策	予防線を踏まえた使用可否
ヒト	薬剤師	公共交通機関の停止・道路の寸断、交通規制による参集不可	近隣居住者のパート採用 店舗への徒歩参集ルートの確認	×
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの	-	-	
	外部調達品 ※外部からの定期的な供給が必要なもの	-	-	
情報	処方箋	処方箋記載必須項目の記載もれ	災害時に最低限記載する必要がある項目を医療機関と確認	×
ライフライン	電気	停電 照明の停止	-	×
	電話	使用困難	-	×

様式Ⅴ業務継続目標とその対策（「処方箋鑑査・疑義紹介」の場合）

【業務継続目標】

発災後経過時間	目標とするサービスレベル	業務を継続するための方策・代替手段		
		サービス提供方法手段の変更		サービス内容（量・質）の変化
6時間	△	薬剤師1名で対応	医療機関訪問による対面での疑義紹介	開局時間の短縮（10時～13時）
24時間（1日）	△	（同上）	（同上）	（同上）
72時間（3日）	△	（同上）	電話による疑義紹介	（同上）
1週間	○	-	-	-
事前対策	-	緊急参集する薬剤師の指定	疑義紹介をできる項目を医療機関と取消える（例：処方箋記載の医薬品が欠品の場合に備えて、疑義紹介なしで変更可能な同種同効医薬品のリストを整備するなど）	災害時の開局時間に関する方針の検討と医療機関への周知

※サービスレベル ○：通常対応可 △：部分対応可 ×：対応困難

様式Ⅳ優先業務ごとの評価と対策（「薬袋（医薬品情報発行）」の場合）

業務番号	(3)	業務名	薬袋（医薬品情報発行）
------	-----	-----	-------------

【業務資源とリスク評価】 下線・太線は必要不可欠な業務資源

業務資源		想定される被害状況	実施する予防策	予防線を踏まえた使用可否	
ヒト	事務員	公共交通機関の停止・道路の寸断、交通規制による参集不可	近隣居住者のパート採用 店舗への徒歩参集ルートの確認	×	
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの	レセプトコンピュータ	他機材の落下による故障 停電による停止	周辺他機材の固定	×
		薬袋発行用プリンタ	他機材の落下による故障 停電による停止	周辺他機材の固定	×
		医薬品情報提供文書印刷用プリンタ	他機材の落下による故障 停電による停止	周辺他機材の固定	×
	外部調達品 ※外部からの定期的な供給が必要なもの	薬袋	揺れによる散乱	保管場所の固定	×
		医薬品情報提供文書用紙	揺れによる散乱	保管場所の固定	×
情報	処方箋	（業務番号（2）で検討）	（業務番号（2）で検討）	（業務番号（2）で検討）	
ライフライン	電気	停電 照明の停止	-	×	

様式Ⅴ業務継続目標とその対策（「薬袋（医薬品情報発行）」の場合）

【業務継続目標】

発災後経過時間	目標とするサービスレベル	業務を継続するための方策・代替手段					
		サービス提供方法手段の変更				サービス内容（量・質）の変化	
6時間	△	薬剤師1名で対応	手書きによる薬袋作成	注意事項の印字スタンプの利用	手書きによる医薬品情報提供文書の作成	医薬品情報提供文書記載内容の簡略化	開局時間の短縮（10時～13時）
24時間（1日）	△	（同上）	（同上）	（同上）	（同上）	（同上）	（同上）
72時間（3日）	△	（同上）	（同上）	（同上）	（同上）	（同上）	（同上）
1週間	○	-	-	-	-	-	-
事前対策	-	緊急参集する薬剤師の選定	薬局の名称、薬局又は薬剤師の連絡先等を印刷した手書き用薬袋の常備	調剤頻度の高い医薬品に関する使用上の注意事項の印字スタンプの常備	医薬品情報提供文書雛形の常備	最低限必要な項目の選定	災害時の開局時間に関する方針の検討と医療機関へ

※サービスレベル ○：通常対応可 △：部分対応可 ×：対応困難

様式Ⅳ優先業務ごとの評価と対策（「計数調剤（錠剤、カプセル剤）」の場合）

業務番号	(4)	業務名	「計数調剤（錠剤、カプセル剤）」
------	-----	-----	------------------

【業務資源とリスク評価】 下線・太線は必要不可欠な業務資源

業務資源		想定される被害状況	実施する予防策	予防線を踏まえた使用可否	
ヒト	薬剤師	公共交通機関の停止・道路の寸断、交通規制による参集不可	近隣居住者のパート採用 店舗への徒歩参集ルートの確認	×	
モノ	常備品 ※薬局が日常的に保有しているもの	はさみ	揺れによる散乱	保管場所の固定	○
	外部調達品 ※外部からの定期的な供給が必要なもの	錠剤 カプセル剤	調剤棚の倒壊による錠剤・カプセル剤の散乱、損失 卸売業者の倉庫被災による供給停止 道路の寸断、交通規制による供給停止	調剤棚の固定 最低3日分の錠剤、カプセル剤の常備	△
		輪ゴム	揺れによる散乱	保管場所の固定 最低3日分の常備	△
情報	処方箋	(業務番号(2)で検討)	(業務番号(2)で検討)	(業務番号(2)で検討)	
ライフライン	電気	停電 照明の停止	-	×	

様式Ⅴ業務継続目標とその対策（「計数調剤（錠剤、カプセル剤）」の場合）

【業務継続目標】

発災後経過時間	目標とするサービスレベル	業務を継続するための方策・代替手段			
		サービス提供方法手段の変更		サービス内容（量・質）の変化	
6時間	△	薬剤師1名で対応	保管庫でのヘッドライトの利用	開局時間の短縮（10時～13時）	調剤日数の短縮（2日分）
24時間（1日）	△	(同上)	(同上)	(同上)	(同上)
72時間（3日）		(同上)	(同上)	(同上)	(同上)
1週間	○	-	-	-	-
事前対策	-	緊急参集する薬剤師の指定	ヘッドライトの購入	災害時の開局時間に関する方針の検討と医療機関への周知	災害時の調剤日数に関する医療機関との取り決め

※サービスレベル ○：通常対応可 △：部分対応可 ×：対応困難